

公立図書館における予約数と複本数の推移：予約上位本の定点調査

安形輝(亜細亜大学)

agata@asia-u.ac.jp

1. はじめに

1998年の津野による公立図書館のベストセラー本の複本購入に対する批判¹⁾は無料貸本屋論争へと繋がった。2003年の日本図書館協会と日本書籍出版協会による公立図書館貸出実態調査²⁾で、ベストセラー本の売上に公立図書館の与える影響は少ないとする結果によってこの論争は一端の収束をみたが、その後も作家や出版社からの批判はたびたび行われてきた。批判が行われる背景には、予約数や複本購入について実証的な調査が行われてこなかったことが挙げられる。

本調査では、予約上位本リストを公表している公立図書館において、予約数と複本数を継続的に集計し、推移をみた。主として、予約が多い資料の上位タイトルとその推移、予約が多い資料群の特徴、最大でどの程度までの複本購入が行われているかを分析した。

2. 調査方法

2.1 予約上位資料群の調査

調査対象としたのは、京セラ、サン・データセンター、三菱の図書館システムを導入している全国の61自治体の公立図書館である。自治体ごとに図書館数は異なるため一システムで複数の図書館を対象としている場合もあれば、一システムで単館の場合も含まれている。煩雑さを避けるため、一自治体の図書館群は仮想的に一図書館として扱う。これらの図書館システムは、ウェブ上で予約上位ランキングを公開する機能があること、ISBN、予約数、複本数を予約上位ランキングの一覧画面ないし詳細画面で表示していること、それらの情報をプログラムから取得できることを条件とし、選定を行なった(表1)。

調査期間は2014年4月7日から2014年7月までである。毎週月曜日時点での予約上位リストにおいて上位20位に入った本の予約数と複本数を調査した。

2.2 予約上位資料群に関する書誌情報等の調査

調査期間中に予約上位ランキングに一度でも入った資料群(以下、予約資料群)についてISBNをキーとして統合した。予約資料群は合計584件であり、各資料について、書誌情報に関しては国立国会図書館サーチの検索API³⁾とAmazonのProduct Advertising API⁴⁾を利用して取得した。また、各書籍に出版社が付与するCコードに関しては、丸善ジュンク堂書店のウェブサイト⁵⁾から取得した。

2.3 調査対象自治体／館に関する基本統計

調査対象自治体／館に関する基本統計については『日本の図書館 統計と名簿 2013』⁶⁾のデータを用いた。

3. 調査結果

3.1 予約数が多かった上位タイトル

調査期間中に予約ランキングに登場した予約数の

表1 調査対象の自治体／図書館

予約上位資料調査対象館		
尼崎市立図書館	川口市立図書館	三芳町立図書館
富士市立図書館	所沢市立所沢図書館	取手市立図書館
八王子市図書館	紀の川市立図書館	新座市立図書館
富士見市立図書館	日進市立図書館	荒川区立図書館
田原市立図書館	戸田市立図書館	大田区立図書館
江南市立図書館	練馬区立図書館	葛飾区立図書館
高浜市立図書館	小牧市立図書館	世田谷区立図書館
刈谷市立図書館	内灘町立図書館	多摩市立図書館
豊川市立図書館	山武市立図書館	調布市立図書館
北名古屋市図書館	入間市立図書館	豊島区立図書館
長久手市中央図書館	湖南市立図書館	三鷹市立図書館
東浦町中央図書館	白井市立図書館	川崎市立図書館
武豊町立図書館	江東区立図書館	返子市立図書館
日野町立図書館	小諸市立小諸図書館	平塚市図書館
文京区立図書館	半田市立図書館	藤沢市図書館
知立市立図書館	立川市立図書館	富士吉田市立図書館
大垣市立図書館	墨田区立図書館	富士宮市立図書館
目黒区立図書館	二宮町立図書館	野洲図書館
多治見市立図書館	三島市立図書館	沖縄市立図書館
浦安市立図書館	西東京市立図書館	大和高田市立図書館
はつかいち市民図書館	三郷市立図書館	

総合計が最も多かったタイトルを表2に挙げた。

表2 予約数が多いタイトル群

順位	タイトル	総予約数
1	村上海賊の娘 上	248,660
2	海賊とよばれた男 上	227,300
3	祈りの幕が下りる時	212,316
4	村上海賊の娘 下	207,484
5	海賊とよばれた男 下	198,798
6	ペテロの葬列	181,444
7	ホテルローヤル	153,440
8	豆の上で眠る	143,371
9	虚ろな十字架	110,961
10	夢幻花	104,446

「虚ろな十字架」は5月23日刊行の東野圭吾による小説であるが、刊行と同時に急激に予約件数が増えている。前作の「祈りの幕が下りる時」については、徐々に予約件数が減少している。東野圭吾は二作前の夢幻花についても10位に入っている。

総予約数が多い上位2タイトルについて推移をグラフ化したのが図1である。図1において、縦軸は予約件数、横軸は調査日を示している。「村上海賊の

娘 上巻」は4月7日時点では多くの図書館システムで予約ランキング外であったが、4月8日の本屋大賞授賞によって次の週から予約数が劇的に増加し、ランキング内に入って来た。6月23日、30日前後の減少に関しては予約数そのものが減ったわけではなく、調査時にメンテナンス等で予約数が取得できなかった図書館が多いためである。

これ以外の資料に関しても予約ランキングに入るときには急激に増加し、予約数が落ち着いた後は徐々に減少するというパターンを示していた。

なお、調査期間中に、ある時点での単独自治体での予約件数が最も多かった資料は4月7日時点での川崎市立図書館の「海賊と呼ばれた男 上巻」で、1,520件の予約が入っていた。この時点で川崎市立図書館は45冊の複本を所蔵していたが、貸出期間一杯の2週間程度平均で借りられると想定した時に、その時点で予約をしても1年と3ヶ月程度待たされることになっていた。調査期間中に川崎市立図書館は「海賊と呼ばれた男 上巻」に関して2冊複本を増やしている。

3.2 予約されやすい資料群の特徴

予約資料群の特徴を、大場らの2006年上半期の資料群を対象とした所蔵調査⁷⁾の結果と比較して分

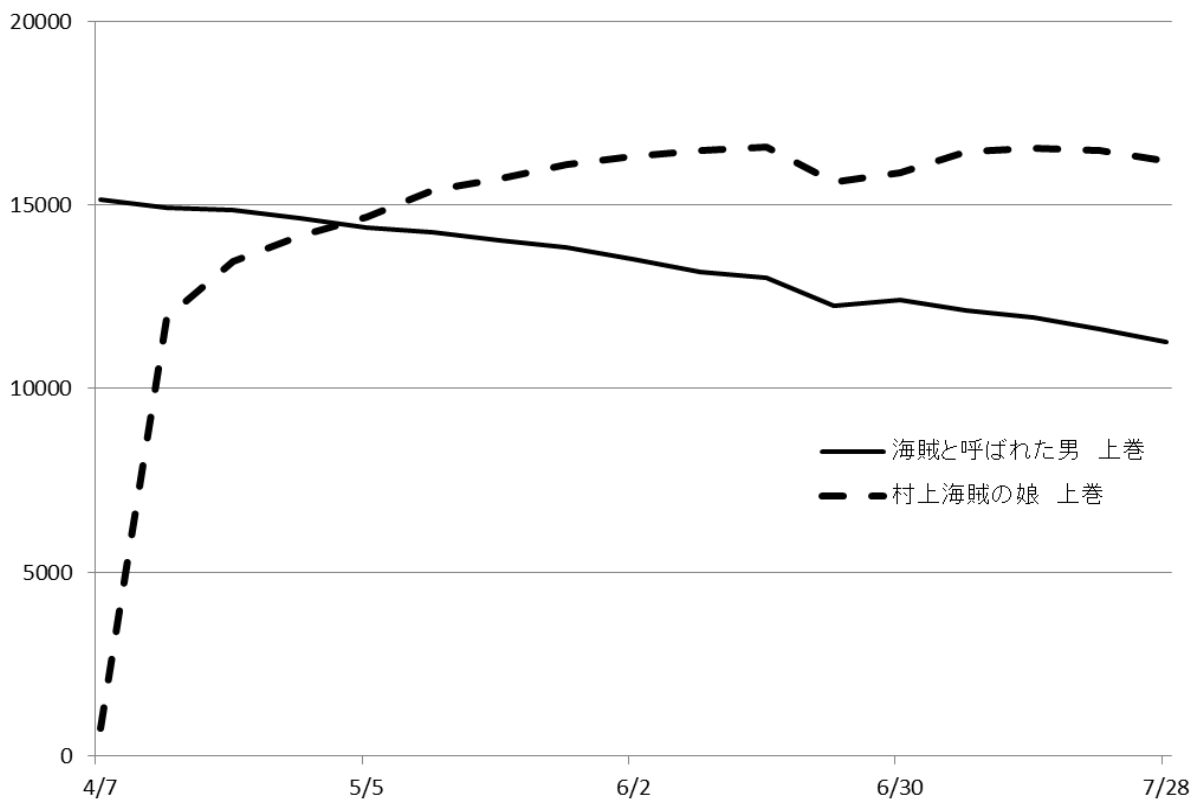


図1 上位2タイトルの予約件数推移

析する。大場らの調査では、公共図書館群所蔵タイトルと出版物全体のタイトルに関してCコードに基づいて構成比を算出しているため、予約資料群のCコードに基づいて比較した。

3.2.1 販売対象

販売対象に関して構成比を算出したのが表3である。一般を対象とした資料群の割合が圧倒的に高い。一方で、専門書は予約資料群にはほとんど入らないことがわかる。また、雑誌扱いにはコミックが入ることが多いが、ランキングに入りにくい傾向にある。

3.2.2 出版形態

出版形態に関して構成比を算出したのが表4である。単行本の割合が高い。一方で、コミックは公共図書館に構成比の割に所蔵されにくく、さらに予約ランキングにも入らない傾向がある。

	予約上位資料群		公立図書館群所蔵		出版物全体	
	タイトル数	構成比	タイトル数	構成比	タイトル数	構成比
一般	482	82.7%	2,045	49.3%	2,242	44.6%
教養	4	0.7%	138	3.3%	162	3.2%
実用	27	4.6%	379	9.1%	443	8.8%
専門	6	1.0%	751	18.1%	891	17.7%
婦人	3	0.5%	19	0.5%	19	0.4%
学参I	1	0.2%	17	0.4%	66	1.3%
学参II	0	0.0%	19	0.5%	66	1.3%
児童	9	1.5%	186	4.5%	193	3.8%
雑誌扱い	51	8.7%	591	14.3%	950	18.9%
	583	100.0%	4,145	100.0%	5,032	100.0%

3.2.3 主題分類

Cコードの下二桁はNDCの二桁目に基づき、一部修正したもので、主題分類となっている。出版物全体と公立図書館所蔵資料群と比較して特徴的な分類を挙げる。「日本文学小説・物語(93)」は出版物全体の構成比では9.3%、公立図書館所蔵資料群の構成比は10.9%なのに対して、予約資料群での構成比は52.9%と過半数を占める。また、予約資料群では

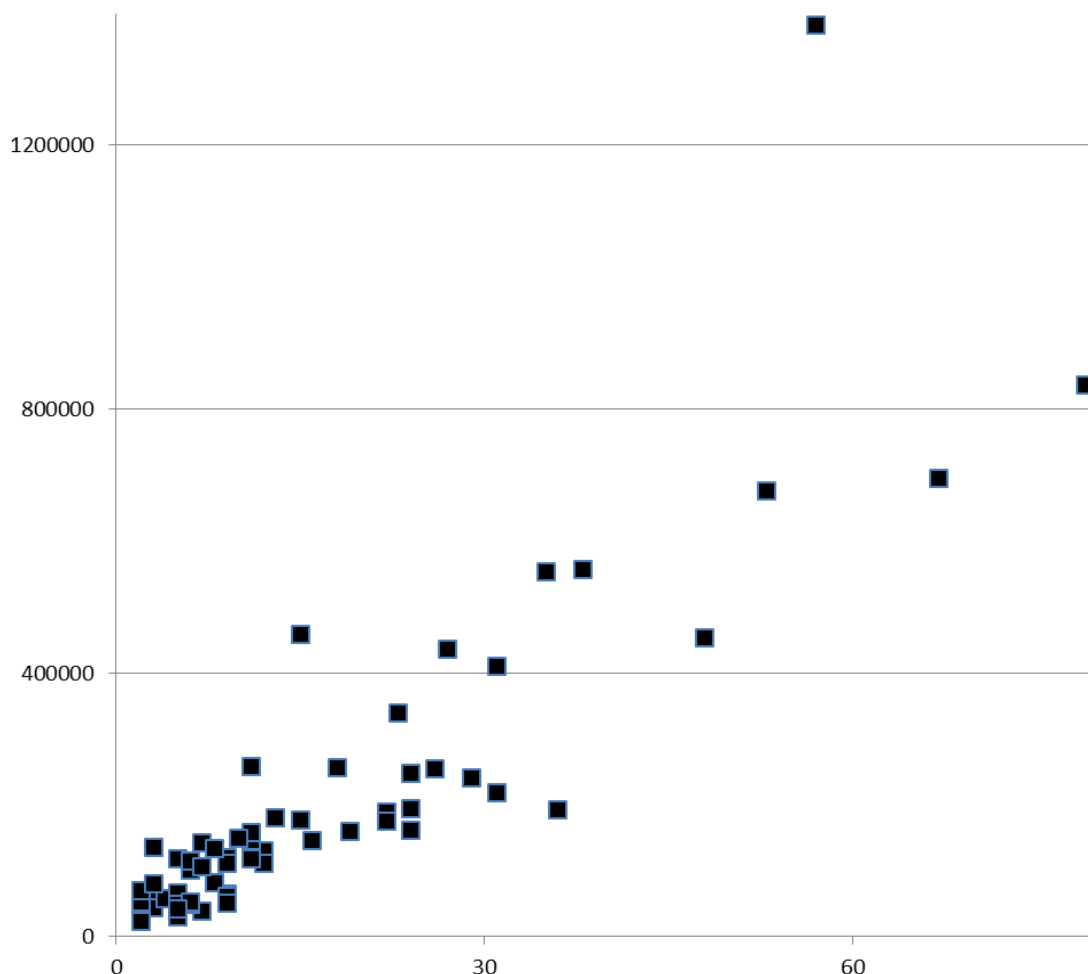


図2 奉仕対象人口と最大複本数

次に多い分類は「日本文学、評論、随筆、その他」(12.8%)である。予約資料群には分類として「日本文学」が付く資料が多いことがわかる。

3.3 最大複本数

複本に関しては予約上位ランキングに入る前にある程度購入されているため、調査対象期間の間に一部の資料群を除き、あまり動きは見られなかった。そこで、ここでは調査期間中に予約上位リスト20に上がった資料の最大複本数をその自治体における最大複本数と見なし、他の指標との相関関係をみた。なぜ最大複本数に着目したかについては、無料貸本屋論争の中でペンクラブから「公立図書館の同一作品の大量購入」という声明⁸⁾が出され、他にも複本の無制限な購入など、同様の発言があり、実際にそうかを見るためである。

図書館名	最大複本数
世田谷区立図書館	79
練馬区立図書館	67
川崎市立図書館	57
大田区立図書館	53
江東区立図書館	48
川口市立図書館	38
文京区立図書館	36
八王子市立図書館	35
藤沢市立図書館	31
調布市立図書館	31

最大複本数が多かった上位10館を示したのが表6である。世田谷区立図書館は非常に多くの複本を持つ図書館のように見える。しかし、世田谷区は人口が多い自治体であり、区内に中央図書館以外に15分館5分室を持つ。奉仕対象人口や館数からみたときに複本数がそれほど多いとは言えない。

奉仕対象人口、蔵書冊数等、最大複本数との相関関係がありそうな指標に関して、最大複本数との相関係数を算出した。相関が高い指標としては、蔵書冊数(0.92)、延べ床面積(0.88)、奉仕対象人口(0.86)があった。

公共施設としての公立図書館の場合、奉仕対象人口あたりの複本数のバランスが重要と考え、調査

表4 予約資料群の発行形態

	予約上位本		公立図書館群所蔵		出版物全体	
	タイトル数	構成比	タイトル数	構成比	タイトル数	構成比
単行本	424	72.7%	2,387	57.6%	2,701	53.7%
文庫	71	12.2%	483	11.7%	490	9.7%
新書	18	3.1%	199	4.8%	216	4.3%
全集・双書	7	1.2%	306	7.4%	425	8.4%
ムックその他	41	7.0%	426	10.3%	575	11.4%
辞典・事典	1	0.2%	31	0.7%	31	0.6%
図鑑	0	0.0%	9	0.2%	9	0.2%
絵本	6	1.0%	93	2.2%	94	1.9%
磁性媒体など	0	0.0%	8	0.2%	26	0.5%
コミック	15	2.6%	203	4.9%	465	9.2%
	583	100.0%	4,145	100.0%	5,032	100.0%

対象期間の最大複本数と奉仕対象人口の関係を図示したものが図2である。図2は横軸に複本数、縦軸に奉仕対象人口をプロットしたものである。ほとんどの図書館は奉仕対象人口に応じた最大複本数となっていることがわかる。図において上部のやや外れた位置にある図書館は川崎市立図書館であり、奉仕対象人口の多さの割には最大複本数を抑えている。

4. まとめ

本調査では従来、定量的に調査されてこなかった公立図書館における予約数と複本数に関して定点調査を行なった。予約数については、人気作家の新刊や文学賞授賞に対応し、急激に増加し、その後徐々に減少していた。予約上位資料は日本文学作品に占められていた。調査期間内の最大複本数からは、少なくとも公立図書館は予約に応じて制限なく複本を増やしている状況は観察されなかった。

【注・引用文献】

- 1) 津野海太郎. “市民図書館という理想のゆくえ”. 『図書館雑誌』, Vol.92, No.5, 1998, p.336-338
- 2) 日本図書館協会, 日本書籍出版協会. 『公立図書館貸出実態調査 2003 報告書』
<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/kasidasi.pdf>
- 3) 国会図書館サーチ外部提供インターフェイス(API)
<http://iss.ndl.go.jp/information/api/>
- 4) Product Advertising API. <https://affiliate.amazon.co.jp/gp/advertising/api/detail/main.html>
- 5) 丸善&ジュンク堂ネットストア
<http://www.junkudo.co.jp/>
- 6) 日本図書館協会. 「日本の図書館:統計と名簿」2013年版.
- 7) 大場博幸ほか. 「図書館はどのような本を所蔵しているか:2006年上半期総刊行書籍を対象とした包括的所蔵調査」『日本図書館情報学会誌』 vol. 58, no.3, 2012, p. 139-154.
- 8) 日本ペンクラブ「著作者への権利への理解を求める声明」2001. http://www.japanpen.or.jp/statement/2000-2001/post_65.html